

御子の命に生かされて

(ヨハネの福音書5・19～30)

一、ヨハネの福音書について

この朝は『ヨハネの福音書』を開いておられます。ヨハネの福音書を読んで思われることは、この福音書は、他の福音書(マルコ、マタイ、ルカ)と比べて、信仰が深められていると言うことです。皆さまがご存じのように、四つの福音書はキリスト教会の歩みの中で書かれ、発行され、やがては正典(＝基準の意味)として聖書に加わりました。どのような福音書ができたのか。おそらく実際の歴史は私共が考えるよりも複雑であったと思いますが、その経緯を詳しく知ることは適いません。はっきりしているのは、「この文書はおかしい。異端である」と見られたものは、原本は残っておりません。翻訳されたものの写本だけが残っています。そして、「この文書はほんものである」と受け止められたものは、命がけて守られてきたことです。

四つの福音書の中で最初に書かれ、発行されたのは『マルコの福音書』のようです。それを底本にして『マタイの福音書』と『ルカの福音書』が著され、発行されました。それからさらに時が経過し、1世紀の終わりに『ヨハネの福音書』が発行されました。では、『ヨハネ

の福音書』の著者は『マルコの福音書』『マタイの福音書』『ルカの福音書』を知っていたでしょうか。おそらく、知っていました。では、なぜ『ヨハネの福音書』が発行されたのでしょうか。それは、この書自身が語っています。〈ヨハネ20・31しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によつていのちを得るためである。〉がそうです。

二、御子の命に生かされて

さて、19節をご覧ください。(そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。子は、父がしておられることを見て行う以外には、自分からは何事も行うことができません。父がなさることは何でも、子も同様に行うのです。〉とあります。『ヨハネの福音書』が語るのは、人として生まれられた御子イエス・キリストが父なる神と一つであることです。主イエスはご自分から発案からして事を行われたのではなく、父なる神の御意思を知って行われました。そのことを主イエスは語っておられます。「まことに、まことに」という言葉を聞いて、皆さまは何を思われるでしょうか。枕詞、すなわち決まり文句のように感じ、あまり気に留められないのではないでし

ようか。元の聖書には、「アーメン、アーメン、あなたがたに言う」と書いてあります。「アーメン」は祈りの締めくくりに言葉ですが、ここでは「確かである」という意味で語られています。すなわち、「今から語る言葉は非常に大切であります。しかも「アーメン」が二度くり返されていますから、とてもとても大切なことなのです。何が大切なのでしょう。それは、主イエスと父が一つであることです。そういうわけで、天地を造られた神は、どのように私たちに接し、語られるのが分かります。イエス・キリストをとおしてです。イエス・キリストを見たら神が分かるのです。きょうはヨハネの福音書5章を開いています。が、ここに至るまで、主イエスは何をなさったのでしょうか。ガリヤラのカナで行われた結婚披露宴において、水をぶどう酒に変えられるという奇跡を行われました(2章)。その後、カペナウムにいた王室の役人の息子が死ぬほどの病にかかっていましたが、主イエスによつていやされました(4章)。そして、エルサレムにあったベテスダの池にいた、三十八年間病気にかかっていた男をいやされました(5章)。それらの業を行われたにもかかわらず、主イエスは言われました。「子は、父がしておられることを見て行う以外には、自分からは何事も行うことができません」と

30節でも同じことを言われています。〈わたしは、自分からは何事も行うことができません。〉と。これが、地上におられた神の子であり、人であったイエス・キリストの姿です。しかも、話はそれで終わりません。主イエス・キリストを信じる者は、主イエスと同じ姿になります。24節です。〈まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からのちに移っているのです。〉「永遠の命を持つ」とか、「死から命に移っているのです」と聞きますと、どのような状況に置かれようとも平安に支えられる姿を思い浮かべられるかもしれませんが、この箇所の意味はそうではありません。主イエスと同じ命に生かされることです。たとい困難が待ち受けていようと、神が導かれるなら、主が指し示す道に向かいたいと願う命です。そういうわけで、父と御子イエスが一つであるように、御子イエス・キリストを信じる者も、御子イエスと一つになり、御子イエスと同じ願いを持つようになります。これが、永遠の命に生かされている者の姿です。

主イエス・キリストを信じるとは、御子イエス・キリストと同じ命に生かされ、御子と同じように歩むことです。